

ご参考

あったことは広く台湾引揚利害関係者のため真に天来の福音というべきである。よってこの際これが受入れ態勢樹立の必要が生じたので多年台湾引揚者の擁護のため尽力してきた台湾関係有志相図り台湾引揚利害関係者の厚生、福祉に寄与しあわせてその後生の向上発展を策するため公益法人の設立を発起した次第である。

昭和三十三年二月一日

財団法人高砂協会

設立発起人代表 佐々木義彦

案 2－財団法人高砂協会の由来

この高砂学生会館は財団法人高砂協会が運営しています。財団法人高砂協会は、閉鎖機関台湾銀行が清算の過程で3千万円を出捐して、1957年に設立されました。高砂学生会館は、当初、日本の地方都市に居住する台湾引揚者の子弟で、東京の大学に通学する学生を収容することを目的としていました。

日本は日清戦争勝利により台湾を殖民地として以来多くの日本人が台湾に入殖し、殖産興業にまい進しました。しかし1945年の敗戦により、日本は台湾を失い、大勢の日本人が日本に引揚げました。これら引揚者の多くは財産を失い、日本での新たな出発を余儀なくされました。引揚者の子弟の中には学力優秀で、向学心に燃える人でも経済的事情で、大学進学を断念せざるを得ない人もいました。このような時代に高砂学生会館は日本各地の台湾引揚者の子弟を受け入れ、社会に貢献しました。

その後、日本経済が復興発展するにつれ、住宅事情はよくなり、また生活に余裕ができて台湾引揚者という言葉も風化していきました。

一方、日本はアジアの先進国として、東南アジアをはじめ留学生を積極的に受入れています。留学生の居住環境はまだまだ厳しいようです。そこで、1982年に財団法人高砂協会は目的を一部変更し、これら留学生にも門戸を開き今日にいたっています。

今世界には多くの争いがあります。高砂学生会館には、いろいろの国から留学生集まっています。国家間の理解はそれぞれの国の人の相互理解が基礎にあると思います。高砂会館の学生は積極的に交流し、お互いの国の文化を尊重し、理解することにより争いをなくし、世界の平和と人類の繁栄に貢献していただくことを期待します。